

昭和村義務教育学校 候補地評価シート1 (傾斜配点数値は最高評点(満点)とし、以下、不足不備不安等マイナス材料による減点減点方式とする)

大項目	中項目	小項目	具体的な視点	傾斜配点	候補地1	候補地2	候補地3	候補地4	大項目計
1 関連法規の準拠	適正な面積及び形状	1 面積	必要な学校施設を整備することかてきる面積であること将来の施設需要に十分対応することのできる面積であること。35,000㎡以上必須、40,000㎡以上が望ましい。	15					15
2 安全性	安全な環境	2 自然災害	風雪害、水害等、自然災害リスクが低い場所であるか。	7					19
		地質・地盤	建物を安全に設置できるか。						
		安全な地形	危険な高低差や深い池など過大な造成がcaなく進められるか。						
		3 道路	周辺は一定幅以上の道路に接することが可能か。	5					
		4 車出入り	頻繁に車の出入りを伴う施設が立地していないか。	7					
		5 避難場所	災害時、住民の避難場所として適切か。徒歩で避難を想定した場合、適地といえるか。						
6 病院等	医療機関が比較的近く事故等への対応のしやすさ。警察署・消防署が近くにあるか。								
3 教育環境	周辺の環境	7 騒音・臭気	騒音や異臭を発生する工場、その他の施設がなく適切な環境か。	5					16
		8 興行場	教育上ふさわしくない施設や娯楽を目的の施設が立地していないか。						
		9 施設運携	学校との連携や地域施設とのネットワークを考慮し立地することができるか。社会教育・体育施設など共同利用を図れる施設に近接して立地することができるか。	6					
	健康で文化的な環境	10 日照	良好な日照及び空気を得ることかてきるか。	5					
		11 景観	景観等が良好か。						
4 利便性	通学区域 スクールバス維持費 通学路 通学路の安全	12 通学距離	文科省推奨距離は小学生4キロ以内、中学生6キロ以内です。小中統合の昭和村義務教育学校はこれをクリアできません。今後、文科省の推奨距離よりも少ない徒歩通学距離を協議し、それを上回る地区は全てスクールバス利用とします(徒歩通学距離目安：高低差や酷暑・クマ出没等を考慮し、小中ともに2km未満で検討予定)	10					21
		13 スクールバス維持費	スクールバス運行の維持費・コストを抑えられるか。	5					
		14 居住分布	児童生徒の居住分布から判断して適正か。						
		15 通学路の安全	交通道路に配慮した安全な通学経路を確保できるか。防犯上、死角が多い場所、人通りの少ない場所をさけ安全確保ができるか。	6					
5 地域との近接性	地域・開放	16 地域・開放	地域との連携を考慮し児童生徒と地域との交流や学校開放を実施する際の利用者の利便性に留意し、効果的な交流や開放活動を行いやすいか。	7					7
6 用地取得	取得・インフラ	17 取得・インフラ	用地取得が比較的容易で、周辺のインフラ整備にコストを要しないか。	6					10
	文化財・農振除外	18 文化財・農振除外	文化財・農振除外等の法的手続きが比較的容易か。	4					
7 村づくりの視点	将来性	19 発展性	学校周辺の産業や地域活動の発展が見込めるか。	6					12
		20 経済性	建設費用を安価に抑えられるか。	6					

合計 100

100